

2

令和6年度新執行部のご紹介

【任期】令和6年4月1日～令和9年3月31日



理事（企画・総務担当）

増永 二之(ますなが つぎゆき)

島根大学では令和5年度に材料エネルギー学部、令和6年1月に先端マテリアル研究開発協創機構を新設し、既存の法文・教育・人間科学・医・総合理工・生物資源分野に加え、島根県の主要産業である材料科学分野における教育と研究の強化を通じた人材育成と地方創生に取り組んでいます。企画・総務担当理事として、限られたリソースを効率的に活用し、学生および教職員の成長と大学および社会の発展を促進するための学びと研究、働く環境の改善に取り組めます。また、広報戦略にも携わり、島根大学の活動成果と魅力を積極的に発信すると共に、地域社会とのコミュニケーションを強化して島根大学内外のステークホルダーと連携した教育・研究・社会貢献に関する様々な事業支援に努めます。



理事（教育担当）

松崎 貴(まつざき たかし)

島根大学では、特定の専攻分野の知識や技能を修得するだけでなく、他分野の知見や体験にも触れることで、幅広い教養や越境的行動力をも身に付けたイノベティブ人材を養成するため、学修者本位の柔軟な教育システム「島根大学クロス教育」を本年度から提供しています。加えて近年、学外者や専門の異なる学生との合意形成・協働を行うことで、社会課題や解決のための手法を実践的に学びとる学生が増えていることから、こうしたPBL型の学びを増やしていきたいと考えています。また、受験生個々の能力や意欲を多面的・総合的に評価する多様な入試を実施しており、へるん入試などの特別入試による受け入れ割合は全国トップレベルで、これを全体の4割まで増やしていく予定です。



理事（内部統制担当）

金山 富美(かなやま ふみ)

旧制松江高等学校、島根師範学校また青年師範学校を母体とする島根大学は、旧島根医科大学との統合により新・島根大学に生まれ変わって20余年、先達の思いと地域社会の期待に応えるべく、松江と出雲の二つのキャンパスで日々、豊かな未来の実現に資する研究と、多様で優れた人材の育成に努めてまいりました。変化のスピードが加速する現代、全構成員が従来以上に国立大学法人としての「あるべき姿」を描きながら、本学に期待される社会的責任を健全かつ適正に果たしていく必要があります。内部統制担当理事として、本学の歴史と伝統を汚すことなく、学生・保護者・地域社会の皆様の信頼を維持できるよう、法令遵守はもとより、内部統制に係る改善に取り組んでまいります。

2

令和6年度新執行部のご紹介



理事（医療担当）

椎名 浩昭(しいな ひろあき)

島根大学病院の理念は、地域医療と先進的な医療を調和し、良質で安心・安全な医療を地域に還元することにあります。医療統括理事として、島根県保健医療計画に沿って5疾病・6事業の医療提供体制の整備に加えて、在宅医療につながる高齢者医療の橋渡しの役割にも取り組んでいきます。以下の4改革を中心に島根県における大学病院としての立ち位置を明確にし、「安全・安心な最善の医療」を病院の総力として発揮しつつ地域に根ざし信頼される島根大学病院を実践いたします。

- 1) 職場環境の改善による働きやすい環境への改革
- 2) 地域における確実な医療人材の確保に向けた改革
- 3) 島根創生に資する医療提供体制への改革
- 4) 組織横断的な研究活動への改革



理事（財務担当）・事務局長

大川 鉄也(おおかわ てつや)

国立大学が法人化し20年が経過し、島根大学においては人間科学部や材料エネルギー学部を新設するなど、本学の教育研究等も大きく広がってきております。これらをさらに発展・定着させるにあたっては、財務基盤の底上げや強化による安定的な財源基盤の構築がより一層重要になります。財務担当理事として、安定的な財政運営を図りつつ、資産の利活用の促進や財源の多様化など財政強化に取り組んでまいります。また、事務局長として、教育研究を運営面全般で支援するとともに、地域や企業等のみなさまから、引き続きご協力・ご支援いただけるよう、様々な連携等をサポートしてまいります。



※各理事の略歴など、詳しくはこちら（島根大学HP）をご覧ください→